「ディエゴ1」
制作年不詳　鉛筆、紙
6・7チセン×13・6チセン

アルベルト・ジャコメッティ（1901～66年）

《名画の扉》　大川美術館コレクションから

20世紀を代表する彫刻家ジャコメッティはイタリア国境近くのスイスの小村に画家の父のもと生まれます。1922年にパリへ渡り、27年から暮らす住居兼アトリエはモンパルナスの場末の庶民的な地区にありました。

キュービスムやシュールレアリスムの影響を受けながら、大戦後は細長く引き伸ばされた人体の彫刻作品を展開します。彫刻を中心に制作しながらも、ともに暮らす1歳年下の鋳物職人の弟ディエゴをモデルに油彩による肖像画やデッサンを多く描きました。

本作は芸術家の関心がとりわけ頭部に集中していることがわかります。「写生による仕事」と「記憶による仕事」の方法的に異なる二つがジャコメッティの制作において交互に重ねられるなかで、彫刻は後者、デッサンはいうまでもなく前者でしたが、刻々と生命の核心に迫る根源的で基礎的な方法でした。

7月15日からの企画展「20世紀アートセレクション」で展示します。（大谷）